

2010年4月、中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」を発表。  
グループの総力を挙げて、新しい価値の創造と  
グローバルな成長を目指します。



代表取締役社長 佐藤 廣士

#### 2009年度の概況

2009年度は、リーマン・ショック以降の難局を乗り切るべく態勢を整えることに注力し、本来、予定をしておりました中期経営計画の策定を一旦保留して、短期収益の改善に軸足を置きながら事業運営を進めました。その結果、連結経常損益につきましては、当初△300億円という大幅な赤字を見込んでおりましたが、最終的には102億円の黒字を確保することができました。また、当期純利益につきましても、2008年度は△314億円の赤字でありましたが、黒字に転換し63億円を確保いたしました。

#### 中長期経営ビジョンの骨子

神戸製鋼グループは、2010年4月に中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」を発表いたしました。今回は、従来の数値計画を中心とした中期経営計画とは異なり、概ね5年から10年程度の将来を見据えた当社グループの方向性、つまり中長期ビジョンを中心としております。

今後5年から10年の将来を見通した場合、基本的には少子高齢化、製造業の国外移転などを背景に国内需要は総じて減少し、新興国を中心に海外の需要が伸長するという構図が予想されます。さらに、温暖化ガス問題が世界的に深刻になるにつれ、国内の操業制約、原子力発電の拡大、自動車のハイブリッド化や電気自動車の普及など、低炭素社会に向けて需要構造が急速に変化していくものと考えております。

このような環境認識のもと、今回の中長期経営ビジョンの策定にあたっては、以下のような当社グループ像というものをイメージしております。

鉄鋼、溶接、アルミ・銅といった素材系と、産業機械、製鉄プロセス、エンジニアリング、建設機械といった機械系の多様な知識や技術の融合を進めることにより、

- グローバル市場において存在感のある企業グループ
- 安定収益体質と強固な財務基盤を備え持つ企業グループ
- 株主・取引先・従業員・社会と共栄する企業グループでありたいと考えております。

このようなグループ像に向けて以下の基本方針を掲げ、新しい価値の創造とグローバルな成長を目指してまいります。

#### 中長期経営ビジョンの基本方針

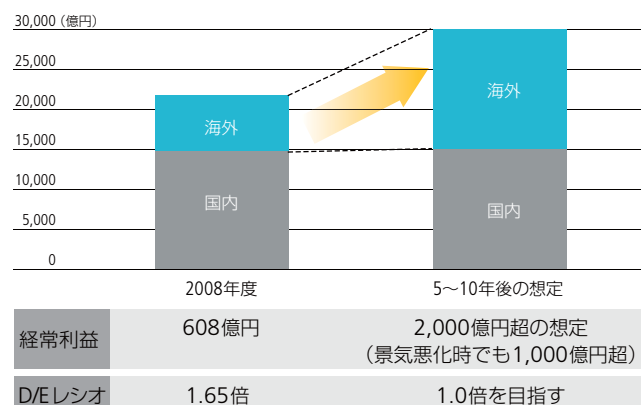
1. オンリーワンの徹底的な追求
2. ものづくり力の更なる強化
3. 成長市場への進出深化
4. グループ総合力の発揮
5. 社会への貢献

また、今回の中長期経営ビジョンについては、キーワードになる「Global(グローバル)」「Group(グループ)」「Growth(成長)」などの頭文字を取り、「KOBELCO VISION “G”」と名付けました。

#### 業績イメージ

今回の中長期経営ビジョンでは、5～10年後におきまして、連結売上高3兆円程度、経常利益2,000億円超の業績水準を想定しております。経常利益については、景気が悪化しても最低1,000億円の水準は確保したいと考えております。今後、国内で競争力を磨き足腰を強靱にしながら、伸長する海外市場を捕そくすることで成長の活路を見出すことが重要であると考えており、売上げの増加は成長が見込まれる海外市場が中心になると思われます。将来的には、売上高に占める海外比率は2008年度の30%強から50%程度にまで高まるというイメージを持っております。また、デット・エクイティ・レシオについては、再び1.0倍を目指していききたいと考えております。

#### 連結売上高(イメージ)



#### 終わりに

当社は、1905年の創業から今年で105年になります。これまで時代の流れに対応し、幾多の荒波を越えてまいりました。100年後には、今とは全く違った会社になっているかもしれませんが、次の100年も「信頼」「グループの和」「変革」という当社グループの企業理念を貫き、着実に成長してまいりたいと思います。当社は、事業の多様性や独自性を活かし、他社が真似のできないビジネスを展開することで、皆様のご期待に応えてまいりたいと思いますので、引き続き当社グループに対するご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年7月  
代表取締役社長

佐藤 廣 士